印象と記憶

水野仙子

私は常に體がたつしやで、大患ひなどしたことがないせいか、死といふものに對してこれぞといふ恐怖を持ちません。從つて生といふものに對してさしたる讃美も感ずることが出來ず、一向そのへんがうやむやに生きてるのを大變お恥しく思つて居ます。悟つたのではなくて感じないのです、悟れないのではなくて感じられないのだから仕様がありません。そればかりでなく今の私は何も彼もがほんとでありません。さういふことをつぐ〳〵此頃考へて居ます。

初出・底本：「讀賣新聞」大正三年四月十八日朝刊
テキスト入力：小林　徹
公開：令和五年十一月十日

リンク：水野仙子　作品年譜